

和書

和書門類			
二	一	六	二
一	〇	六	七
二	〇	九	九
冊	架	函	號

內閣文庫			
九	二		和
九	四		書
函	七		
	一		
九	九		
架	冊	號	類

內閣文庫			
番號	和	24729	
冊數	212(35)		
函號	199	216	



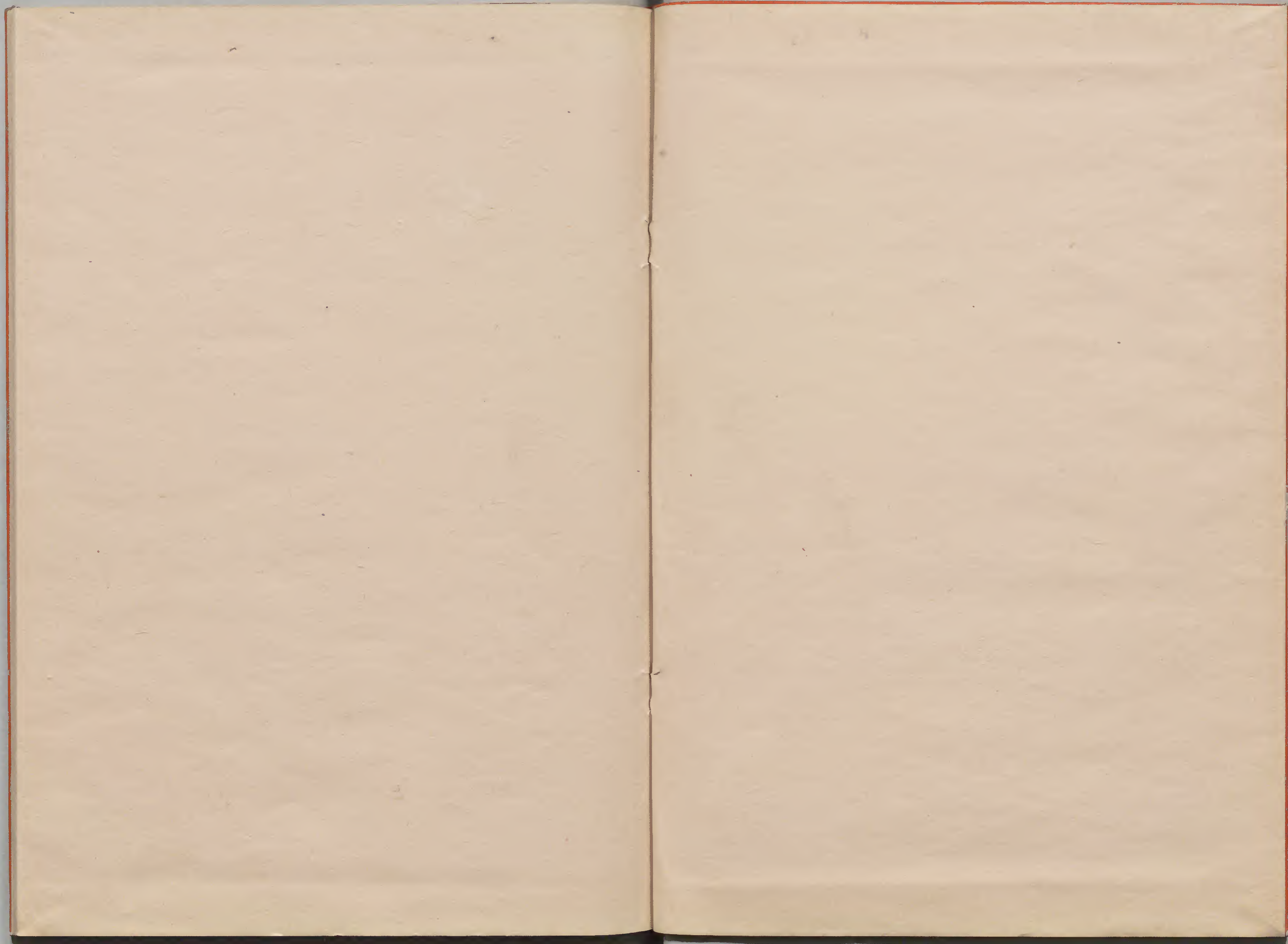
A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19

Kodak Gray Scale



© Kodak, 2007 TM: Kodak





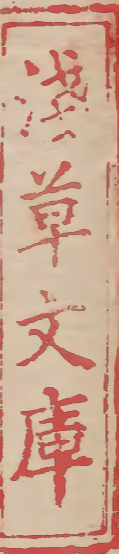


大分

は



志



改正オハシく清ミス原エとエいイロもイロ色イロをこのこ
 家エンを専モツと志タメ給タメよタメりカ。宮ヨウ色シヨク無ブ
 双サウ乃ビ養ジン人ノを乃エ孫タメの楊ヤウ家カの正カすめ
 たるツスルよツスルつて其ソノ名ナを楊ヤウ貴キ妃ヒと号ガウスす。

蓬萊宮の中ホウライキウ ウチ大正殿タイレンデンと名ナと玉妃キヨクヒと
改アラタメたりワまハいハいハ間マ彼カノ殿デンと立タテ懸ケ
むムやヤとト存ゾシ作セ有アリ一イチ教ケとト隨シつツて
蓬萊宮ホウライキウよヨまマさサてテまマいイとト宮ミヤ殿デン盤バン
盤バンとト志シてテらラらラまマ志シ保ホもモあアくク法ホウ
教ケぎギとトまマしてシてテらラあアぐグらラ七シツ寶ホウをヲまマ
まマいイとト漢カン宮キウ萬マン里リ乃ノ松ソウ瓦カ長チヤウ生セイ

平ヘイらラあアらラ乃ノ松ソウ瓦カ長チヤウ生セイ
あアぐグとトぬヌへヘうウまマあアらラあアぐグのノ可カ
わワあアぐグとトまマいイとト宮ミヤ中チュウをヲまマいイ
大ダイ真シン殿デンとト志シてテらラらラまマ志シ保ホもモあアくク法ホウ
此コノ可カ乃ノ排ハイ徊クワイしシとトのノまマいイとトもモ
うウかカつツつツとトなナらラるル昔シヤクハハ彌ミ山サンのノ
まマいイとトまマいイとトまマいイとトまマいイとト花ハナのノ色イロ

しよまきばつらつるあはれを今蓬
菜の秋の洞もあはれあぐも月
影もあはれあはれ秋のあはれ
ふげりもあはれあはれ大唐の方士
物をもあはれあはれ尋ねたり
玉妃あはれあはれあはれ大唐
帝の使にあはれあはれあはれあはれ

まさうとうと九華の帳を押のぞき
玉乃の影をたのぞきあはれあはれ
あはれあはれあはれあはれあはれあはれ
あはれあはれあはれあはれあはれあはれ
あはれあはれあはれあはれあはれあはれ
あはれあはれあはれあはれあはれあはれ
あはれあはれあはれあはれあはれあはれ
あはれあはれあはれあはれあはれあはれ

柳ヤナギのニまトもハ是コトはハいハまハらハ
あアまマはハあアまマのハ官キのハ粉コのハ顔ガ色シ
乃ノあアまマもモとトわワらラわワくク
まマしシ作アらラせセもモ貴キにニまマらラ
あアまマはハあアまマのハあアまマのハあアまマ
唯タちチにニはハ乃ノ法ホウ教キョウまマよヨとトいイふフ
命イノチ

もしあアまマらラくクまマらラきキはハなナらラなナらラなナ
あアまマのハ官キはハいハまハらハ
清オシ海ウミをヲあアまマのハ事コト
心ココロはハあアまマのハあアまマのハあアまマのハ
あアまマのハあアまマのハあアまマのハ
あアまマのハあアまマのハあアまマのハ
あアまマのハあアまマのハあアまマのハ
あアまマのハあアまマのハあアまマのハ
あアまマのハあアまマのハあアまマのハ
あアまマのハあアまマのハあアまマのハ

空しくもしも理世思ひてうらみと

こもき具初秋乃七日夜二星よ

夢び言乃紫よ 月 天よあり

福づく翼乃身とあえ地よ

あくなくま理乃枝とあり

夢び事とたうつ子巻よわ初語

あれたし夜もれうけし涙の那

上あけ
はまきし世乃流物生記の

あらしびくそ身乃馬鹿よ留まら

魂と仙宮ようらつて翼もさも

るひきもら翅をのりまき理も枝

朽そたままも色をなまむは

心乃行へあう終乃あをを頼

ひくと語り終や 結三きり

いそいで 舟の 伴に 一 曲 奏 する 思
たし 舟の 伴に 一 曲 奏 する 思
こゝろ 舟の 伴に 一 曲 奏 する 思
の 舟の 伴に 一 曲 奏 する 思
志ら 舟の 伴に 一 曲 奏 する 思
あま 舟の 伴に 一 曲 奏 する 思
ち 舟の 伴に 一 曲 奏 する 思
た 舟の 伴に 一 曲 奏 する 思

か 舟の 伴に 一 曲 奏 する 思
い 舟の 伴に 一 曲 奏 する 思
も 舟の 伴に 一 曲 奏 する 思
は 舟の 伴に 一 曲 奏 する 思
も 舟の 伴に 一 曲 奏 する 思
を 舟の 伴に 一 曲 奏 する 思
未 舟の 伴に 一 曲 奏 する 思

昔のちあこあまはかりよん東上
 せれまふ楊家の深害と頼られ
 しまじちんあるしよ君か
 ぶきつちやそりり好宣上
 止め直珍に俗若回元乃から
 れも縁つさゆれもら
 此海よわさちと来りて心

もつちもあしりてサシ
 のもふはきり生者女蔵乃理らよ
 もも海し先しじり五穀もは後海
 の回別対極ぞよふ別乃千年終よ
 朽ぬハらあ考かふしのはら
 歎き乃中のおま知とるや新も
 う乃もむ東の仙女あるがし

